

3. 増養殖技術研究費

1) ホンモロコの種苗生産における採卵基体の改良－Ⅱ

太田滋規

【目的】

ホンモロコは本県における重要な漁獲対象種であるが、近年大幅に減少している。そのため、本県では種苗の放流や増殖場の造成を行っている。ホンモロコの種苗生産の際の採卵は塩ビパイプで四角く枠を作り、それに採卵基体（キンラン）を張り巡らせて、親魚池に浮かべ、自然採卵により行われている。

昨年は単位時間あたりに効率的な採卵を行えるよう採卵基体の構造の改良を行った。今回はより安価で製作が簡単な基体の検討を試みた。

【方法】

今回作成した産卵基体は去年のシート型を改良したもので、産着卵基体にはダイオラックス遮光ネット #1400 40%（ダイオ化成株式会社製 以下40%遮光シート）を用い、それを塩ビ管枠に4重に張り、ホンモロコが中に潜り込めるよう、スリットを8ヶ所施して作製した。

採卵は種苗生産試験の採卵の際に、作成した採卵基体の沈子側を親魚池の壁面にロープで固定し、水面に浮かべて自然採卵を行った。適度に産着卵が得られたと判断したときは、取り上げてふ化槽に収容し、新たな採卵基体に取り替えた。

【結果】

作成した採卵基体の材料は13mm塩ビ管80cm×3本、40cm×2本、13mmエルゴ4個、13mmチーズ2個、9mm鉄棒80cm×1本（ふ化槽に立てて収容するために塩ビ管枠内に入れる錘）、ロックタイ10本、40%遮光シート200×170cm、ロープ1mであった。この採卵基体は塩ビ管枠を含めて1枚あたりの単価は816円（ロープ除く）となり、これまでのキンラン枠の1枚あたりの単価10,976円（ロープ除く）より大幅に安く作製できた。また、作製に掛かる手間は、従来のキンラン枠ではキンランを塩ビ管枠にロープで結びつけているため、時間が掛かるものであったが、今回作成した産卵基体はシートであるので、塩ビ管枠につけるのが非常に簡単であった。

採卵では18枠分の産着卵が得られ、それらをまとめてふ化槽でふ化させたところ56万尾のふ化仔魚が得られた。従って、1枠あたりでは31千尾のふ化仔魚が得られたことになる。これまでのキンラン枠では50千尾程度のふ化仔魚が得られているため、作製した採卵基体では得られるふ化仔魚数は少なくなった。しかし、これは遮光シートを4重としたため、遮光シートの重ねる枚数を増やすことにより、産着卵を多くすることは可能であると思われる。

今回作製した採卵基体は、従来のキンラン枠に比べ安価で軽く、しかも作製が非常に簡単で、遮光シートの枚数を増やすことにより、キンラン枠と同様に採卵ができるものと思われた。ただし、この採卵基体の欠点は、遮光シートの内部の産着卵が直接見られないので、適度な産着卵の量が把握しづらいことであった。

40%遮光シートを用いた採卵基体



おもて面

うら面



遮光シート採卵基体による採卵風景

表1 作成資材単価

	規格	単価(円)
13mm塩ビ管	4m	355
13mmエルボ		30
13mmチーズ		36
9mm鉄棒	4m	360
ロックタイ	300本入り	900
40%遮光シート	2×50m	7,000
キンラン	13.5m	10,500